

C-13 図柄の大きさや色彩の誘目性との関係について

林学園女短大 長谷川祥子

目的 視知覚的機能特性のなかの誘目性、視認性、可読性、識別性は衣服着用の際、衣服が他人によってどのように知覚されるのかを考慮する場合、きわめて重要な問題となる。そこで、図柄の大きさおよび色彩をとりあげ、ある色彩条件のもとで、それが色彩の誘目性といかなる関連を有するのかを検討した。

方法 暗室内に刺激提示板を置き、そこに、赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫の10色の図柄（大きさ半径1.35 cm、1.7 cm、2.6 cm、3.8 cmの4種）計40個を貼付し、被験者が色彩と大きさの関係を総合的に観察したうえで、目立ち易さの判断を求めた（系列範ちゅう法を使用）。背景は3種 N 15、N 55、N 95

結果 背景黒色の場合：色については、赤と黄赤、青緑と青、青紫と紫の各群がそれぞれ、かなり接近している他は各色とも誘目性に大きな差が見られた。

背景中灰色の場合：図柄の大きさと誘目性の関係は背景黒色の場合とほぼ同じ。赤と黄赤は、図柄小の時は、誘目性尺度値が近似しているが、図柄の増大に伴ない両者の差が顕著となる。

背景白色の場合：半径1.7 cm以上の大きさの図柄では、各色とも誘目性が1段と大きくなる。また他の2背景の場合より図柄の増大に伴ない誘目性の上昇傾向が顕著に認められた。